

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会

園小中接続便り①

令和4年7月29日

第1回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会を開催しました。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向け、幼児教育施設の教職員と小学校の担当教員の合同研修会を令和4年6月23日(木)に開催しました。小学校教員22名・園保育者26名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。令和5年1月に第2回研修会を予定しています。



土方・中幼稚園 石原敦子先生、ありがとうございました。



「友達と認め合ったり思いを伝え合ったりしながら、力を合わせて遊びを楽しむ子をめざして～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通して～」について、講話をしていただきました。

子供の姿・子供の興味関心を大切にした保育の中で、子供たちの育ちを捉え、教師が環境設定や適切な援助を考え取り組んだ、石原先生の素晴らしい実践発表でした。

石原先生の講話から ～どのような気づきや学びがありましたか？～

(参加者「研修アンケート」より抜粋)

- 子供の姿や気づきを教師が的確に捉え、**教師がねらいを押さえて、援助や環境設定をしていることが**、子供たちの深い学びにつながっていることについて、実践からよくわかった。
- 幼児教育では、1つの遊びの中に、いくつもの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」があり、様々な遊びを通して、**総合的に育まれている**ことを改めて理解できた。
- 子供にどう育ってほしいか、**何をねらいにするかを、保育者が明確にすることで**、その活動への援助の方法が変わるため、ねらいを明確にし、実践していきたい。
- 幼児教育での経験を、小学校でも生かすことができるという**自信をもたせる声掛けや教師の働きかけ**を、小学校でもっとしていきたい。
- 机で学習する時間より、遊びを主体とした学習や生活科を中心とした学習が大切である。**教科の枠にとらわれず、遊びの延長の中で学んでいく時間の設定**をしていきたい。

保育の場面から、保育者と教員で語り合いました。

グループワークでは、右のようなワークシートを用意し、ある保育の場面の子供の姿を語り合いました。

遊びの中には、どのような「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が見られるか、保育者と教員が一緒になって、語り合う時間は、幼児教育と学校教育の相互理解の第一歩だと感じました。



グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか?～

○1つの事例を小学校の先生と一緒に確認し合うことができ、貴重な時間となった。保育者と教員が一緒に話をすることが、幼児教育と学校教育の相互理解につながった。



○このような時間をもっと多くもつことで、相互理解が深まると思った。小学校の先生が、園での子供の姿や幼児教育について理解しようとしていることをとてもうれしく感じた。

○互いに交流し、目の前の子供の姿で「10 の姿」を確認してみたい。園のことを小1担任だけでなく、全職員が知ることが大切だと感じたので、学校全体に情報共有していきたい。

全体を通して ～どのような気付きや学びがありましたか?～

○今まで以上に、小学校の先生が、「園で培ってきた力」を引き出すような働きかけをしていただけていることがわかった。

○「小学1年生はゼロからのスタートではない」という言葉通り、園での育ちが小学校で生かされるような働きかけをしていきたい。

○講話やグループワークを通して、幼児期の育ちを学校教育へつなぐ重要性を実感できた。

○他校では、園の先生に学校に来てもらい、朝の活動や読み聞かせ等に参加してもらい、接続がスムーズに進むように工夫していると知り、自校でも取り入れたいと感じた。

○スタートカリキュラムやアプローチカリキュラム等の様式を統一した方が、園と学校の接続がより進むのではないかとグループワークで話題に上がった。

令和3年度、「園小中一貫教育推進研究委員会」において「かけがわ型育ちと学びのジョイントブック」を作成しました。異校種（園・小・中）の保育・授業参観や、研修等で積極的に活用していただきたいと思います。



育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り②
令和4年11月1日

園・学校訪問や、かけがわ型架け橋カリキュラム開発会議での情報交換の中で、様々な園小中接続への取組を見たり、聞いたりする機会があります。

今回は、その中から2つの取組を紹介したいと思います。

お互いにとってメリットがある、園小中接続へのきっかけづくり①

「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」の掲示

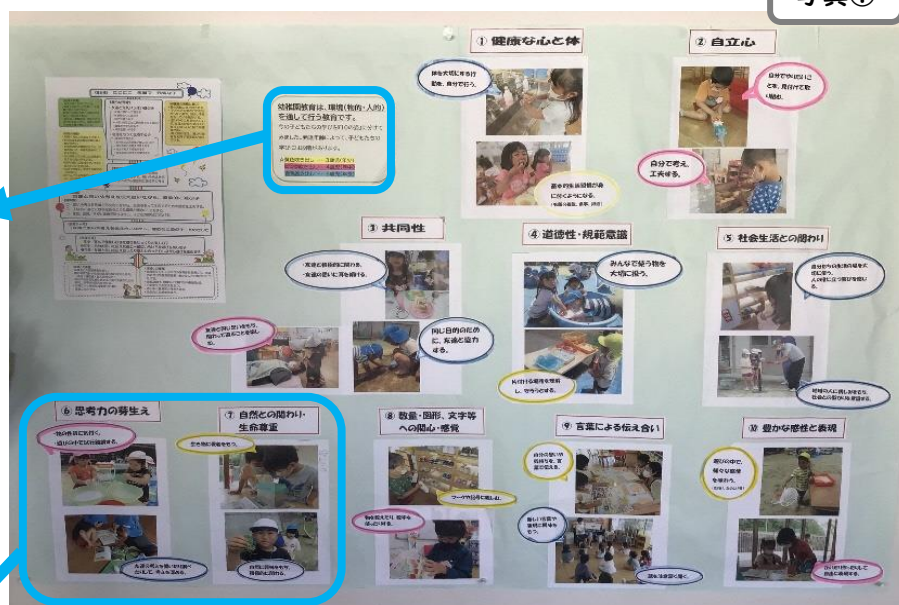
園訪問に行かせていただいた時、玄関を入るとすぐ、パッと目を引く掲示がありました。下のような(写真①)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が大きく掲示されていました。

写真①

写真②

幼稚園教育は、環境(物的・人的)を通して行う教育です。
今の子どもたちの学びを『10の姿』に分けてみました。発達年齢によって、子どもたちの学びには段階があります。

☆黄色吹き出し…3歳児(年少)
ピンク吹き出し…4歳児(年中)
青色吹き出し…5歳児(年長)



写真③



園の先生にお話を聞くと、「保護者の方の送迎時や、小・中の先生方が保育参観に来てくださった時、見てもらえるようにしています。」と説明してくださいました。「10の姿」の具体的な子供の姿を、年児ごと(写真②)に、吹き出しで説明(写真③)してあることで、保護者や学校の教員が、遊びの中の学びを捉えることの手掛かりになり、園小中接続のきっかけとなりました。

お互いにとってメリットがある、園小中接続へのきっかけづくり②

園小のお便り交換

続いて紹介するきっかけづくりは、お便り交換です。

園のお便りを小学校で、小学校1年生のお便りを園で、交換して回覧している取組です。

付箋①

【7月のねらい】

年少 *教師や友達と関わりながら、自分の好きな遊びを楽しむ。
*水の心地よさを味わいながら、水遊びを楽しむ。

年中 *全身で水に触れて遊ぶ心地よさや楽しさを感じる。
*気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、思いやイメージを自分なりに表現する。

年長 *自分なりに目標をもって挑戦したり、試したりして遊びを楽しむ。
*いろいろな友達と関わりながら、遊びを進めることを楽しむ。

【7月の生活習慣】

年少 *衣服の着脱を教師に手伝ってもらいながら、自分でやろうとする。
*汗をかいたら、ハンカチやタオルで汗を拭こうとする。

年中 *暑い日でも自分なりに暑み、決められたところに片付けようとする。
*立って着替えをする。

年長 *話す人の顔を見て話を聞く。
*汗をかいたら、ハンカチで拭いたり、着替えたりする。

ありがとうごさいます！

♡5月にカブトムシの幼虫をくださった落合の高塚さんから、花の会で育てているサルビアやマリーゴールドの苗をたくさんいただきました。

♡川久保の牧野さんからカブトムシの成虫をいただきました。早速、触れたり、持ってみたりする姿が見られました。

土方・中幼稚園になり、両地区の方から、分け隔てなく温かく見守られている子どもたちです。

小学校では、ただ回覧するだけではなく、園小中のつながりになる部分に、教頭先生がマーカーを引いたりコメントをつけたりして、回覧してくださっています。(付箋①)

校内で供覧する時、園小接続につながるポイントを押さえてくださることで、職員にとって、ポイントを短時間で共有することにつながっています。

出来上がる頃には夏休みに入ってしまうかと思うぞうさんを園内に飾りたいと思っていますので、下さいね。

めろんぐみ みずあそび☆がんばりカード

みずあそび、がんばりカードを作りました！

めろん組さんでは、プール遊びを通して、自分なりの目標をもって取り組んでほしいと考えています。頑張りカードの内容の興味をもったところや自分ができるようなところから取り組み、少しずつ難しいことにも意欲的に挑戦していけるように援助していきたいと思っています。お家の方でも、お風呂で顔付けをしたり潜ったりするのを励ましてあげてくださいね。

このような水あそびの内容を園で経験して1年生に伝えたい...さて、中の1年生の様子は どうでしょうか...

“みずあそび”がんばりカード

園でも 自分なりの目標をもち、それに合わせて取り組んでいく活動を行っているように、中の水泳や水遊びにおける“マイチャレンジ”にむかえる取り組みですね。

付箋③

左は、「みずあそび」の活動と「みずあそび☆がんばりカード」について紹介している園のお便りです。

園で行っている活動と小学校の教科等の内容のつながりを、保育士と学校の教員が意識することは、接続の大きな一歩となります。

(付箋②・③)

園では、小学校のお便りを回覧することで、小学校ではどのような子供を目指して活動をしているのかを知るきっかけとなっているそうです。

園小では、似ている活動内容がありますが、小学校での取組内容を知ること、園での活動をどうしていくとよいか、考えるきっかけになっているようです。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り③
令和5年1月13日

今回は、園や小学校の「環境づくり」や「発問」の工夫等について紹介します。

環境づくりの工夫 ～ 園編 ～

幼児教育は、環境を通して行う教育を基本としています。幼児期の主体的な活動（遊び）は、学校教育と異なり、活動の到達目標が決まっているわけではありません。そのため、**子供たちから芽生えた興味や疑問を大切に育んでいくための「保育者の支援や環境構成」**が欠かせません。幼児教育では、子供たちの「やりたい」「どうなっているの?」「どうして?」というような気持ちが徐々に深まっていくような環境構成が大切になってきます。

11月に園訪問に伺った時、教室の前に、子供の心に響く、下（写真①～⑤）のような、コーナーが作られていました。



写真① どんぐり・まつぼっくり



写真② 様々なたね・きのこ



写真③ たねのクイズ



写真④ あきのたべものクイズ



写真⑤ ふゆのたべもの



教室の前には、左のような「どんぐりひろば」が作られていました。

子供たちは、様々な種類のどんぐりを転がしたり、友達といろいろなコースを作って試したりしたそうです。**子供たちの「つぶやき、疑問、わくわく」**に沿った、先生方の環境づくりがあったからこそ、そのような子供の姿が見られたと思います。

環境づくりの工夫 ～ 小学校編 ～

お道具箱やロッカーの使い方等、「見れば分かる」「見ればできる」ようにするための視覚的な支援があることで、子供が自分の力で、生活していける環境づくりになります。

言葉で説明するだけでなく、文字や図、写真等を掲示することは、子供の理解の助けとなります。また、1年生の目線の高さを意識し、表示の高さを考えることも大切です。



子供の気付きや自覚を促す発問の工夫 ～小学1年生の授業から～

参観した小学1年生の授業で、1年生の先生方は、子供の思いにそって子供自身もっている力を引き出したり、子供の気付きや育ちを価値づけたりすることを大切にしながら、子供たちに関わってくださっていました。

その中から「発問の工夫」について、教師の意図と合わせて、いくつか紹介します。

発問①「園ではどうだった?」「園の時には、どうしてた?」

意図：子供たちが、これまで「どのような経験をしてきたか」「どのような学びをしてきたか」という視点で、子供を見取り、子供がもっている力を引き出せすようにする。

発問②「〇〇ってどういうこと?」「どうしてそう思うの?」

意図：子供の思いに寄り添い、子供の思いを大切にし、その子供の思いを引き出すようにする。(子供が自分の思いを言語化するための教師の支援)

発問③「どうすればいいかな?」「どっちがいいと思う?」

意図：子供から気付きが生まれたり、自分で考え判断したりするような教師の声かけをすることで、子供の自信につなげるようにする。

現在、保育士や先生方が取り組んでいることの中にも、園小の接続につながっていることがたくさんあると思います。

園小中の「接続の芽」を見つけながら、この「育ちと学びをつなぐ」で紹介していることとつなげて、それぞれの保育や授業に生かしていただきたいと思います。

育ちと学びをつなぐ

掛川市教育委員会
園小中接続便り④
令和5年2月3日

第2回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた研修会を開催しました。

今年度は、幼児教育と小学校教育の共有と理解の推進のため、本研修会の回数を増やし、令和5年1月26日（木）に第2回を開催しました。

小学校教員22名・園保育者34名が参加し、講話とグループワークを通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性を理解するとともに、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの充実・活用を図ることを目的に実施しました。

中小学校 1年担任 芥川梓先生、ありがとうございました。



「幼児教育と学校教育の円滑な接続を目指した小1教育」について、講話をしていただきました。

入学当初の子供の実態を把握し、幼児教育を通して身に付けたことを教師が意識し、生かしていく取組でした。

幼児教育で培った力を学校教育へつなげることで、子供が安心して自信をもって、自分の力を発揮できるようにするための実践について話してくださいました。

芥川先生の講話から ～どのような気づきや学びがありましたか？～

（参加者「研修アンケート」より抜粋）

- 園での学びを小学校が共有し、ゼロスタートではなく「つなぐ」ということを意識して、教育活動を行っていくことの大切さが実感できた。
- 園で培った力を考慮し、教師や上級生が手を出し過ぎないように、見守る・待つことを学校全体で共通理解し、1年生が「小学校でも自分たちでできる!」と自信をもって活動できるような支援や活動を自分の学校でも考えていきたい。
- 子供の発言や行動を見守っていると、園での経験を生かした気づきや考えがたくさん出てくるので、教師がそれを見取り、つなげていくといった「教師の出番」を大切にしたい。
- 小学校では、どのようなねらいをもって授業を行っているのか、園の経験が小学校の活動のどこにつながっているのか等を理解することができた。
- 小学校の授業の中で、園の活動と似ているところやつながるところが意外とあることを知ることができ、互いの取組や方法、ねらいを知ることから接続は始まると感じた。

掛川こども園 5歳児学年主任 鈴木有里紗先生、

5歳児担任 渥美和人先生、ありがとうございました。



「幼児教育の環境設定や保育士の援助から小学校への接続を考える」について、講話をしていただきました。

乳児期から幼児期へのつながりを考えた保育、子供の興味・発達段階に合わせた保育士の援助や環境構成等と園小の接続をふまえた取組について話してくださいました。

掛川こども園の先生の講話から ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○園での遊びには保育士の意図があり、**子供の気付きに合わせた援助や環境の工夫**をされていることがわかった。幼児教育理解に大変参考になった。

○園と小が**相互理解し、共有**していくことで、子供が小学校に入ってから**園で培った力を発揮し**、見方・考え方を発揮できるように、**自分自身の指導を見つめ直したい**と思った。

○園での活動やねらいを具体的に紹介してくださっていたので、小学校の先生たちの更なる**幼児教育理解につながった**のではないかと感じた。

○園の活動や経験、日々の生活の積み重ねの全てが、小学校生活の土台となっており、**小学校教育の理解を進めながら**、幼児教育を行っていくことが改めて大切だと感じた。

○園で小学校教育の理解を進めながら、**小学校教育を見通した保育**を実践していると感じた。

「ジョイント活動」について、保育士と教員で語り合いました。

グループワークでは、「ジョイント活動」（園小接続のポイントとなる、園での経験が小学校の学びにつながる活動のこと）をもとに、園での経験と小学校での授業内容とのつながりについて、具体的にイメージしながら、保育士と教員が一緒になって話をしました。



グループワークから ～どのような気付きや学びがありましたか？～

○**幼児教育と学校教育では、ねらいは異なるが、似たようなつながる活動がある**と知ったので、互いの活動を知り、授業を行っていくことで、接続の第一歩になると思った。

○園では、**子供の様々な気付きから、遊びや活動を考えている**。園の活動を知り、学校の授業の単元を組むことで、**子供の学びをつなげる**ことになるのではと感じた。

○今後、秋の活動以外のジョイント活動についても話をするすることで、**互いの教育内容を知る機会**になると感じた。園小の先生で話をする機会が増えていくと良い。

○**ジョイント活動について話し合うことで、相互理解につながっていく**。もっと気軽に、どんな活動をしているか、問い合わせができるような関係を築いていきたい。